World Vision
この子を救う。未来を救う。

Closure report 2023

終了報告書

エチオピア連邦民主共和国
ゴンダール・ズリア地域開発プログラム

ETH-182258（2006年～2023年）

ありがとうございました

皆さまのご支援により、人々が変わり、地域が変わりました

読解力のある小学６年生の割合

2016年 51.3% → 2023年 81.6%

トイレを利用することができる世帯の割合

2012年 41% → 2023年 71.1%

18歳以下で結婚する子どもの割合

2016年 15% → 2023年 2.8%

Education

教育

子どもたちの学びをサポートする体制を強化しました

以前は学校の設備が不十分で、机や椅子が不足するなど、子どもたちが集中して学習に取り組める環境ではありませんでした。生徒の読解力は低く、また子どもの積極性を引き出すような教育法の知識を持つ教師が少なかったこともあり、学校を中退する子どもが多くいました。そこでワールド・ビジョンは、学習机の提供、トイレや手洗い場の設置を含む校舎の整備を行い、学習環境の改善に取り組みました。地方行政やコミュニティと協働して、読書キャンプの実施や就学前教育センターの設置を行うと同時に、教師や読書キャンプのボランティア、保護者に対しても様々な研修を実施し、子どもたちの学びをサポートする体制を強化しました。こうした活動により、子どもの読解力、進級率に向上が見られています。

支援前

土がむき出しの教室で、石に座って授業を受ける子どもたち

支援後

新しい校舎と机が提供され、学習環境が整えられました

成果

読解力のある小学６年生の割合

2016年 51.3% → 2023年 81.6%

８年生の進級試験合格率

2016年 58.5% → 2023年 80.3%

小学生の落第率

2007年 9.3% → 2023年 3.2%

Water

水衛生

水衛生施設を整備し、地域全体の衛生行動が改善しました

地域には、飲用に適した安全な水を得られる場所やトイレがなかったため、多くの住民が糞尿に汚染された池や川からくんだ水を飲んでおり、特に小さな子どもたちは下痢などの症状に苦しんでいました。ワールド・ビジョンは水供給設備の設置や修理、トイレや手洗い場の設置を 70 カ所で行う一方で、水管理委員会の設置や地域の技術者に対して研修を実施するなど、水設備を適切に維持管理する体制を整えました。地方行政や地域住民に対しては、手洗いや屋外排泄根絶のための啓発活動を、学校では水衛生クラブを設置することで、地域全体での衛生環境の改善を目指しました。これらの活動を通じ、地域住民の衛生行動にも改善が見られています。

支援前

子どもたちは長い時間をかけて、遠くの水源まで水をくみに行かなければなりませんでした

支援後

井戸ができてからは、自宅の近くで安全な水を得られるようになりました

成果

トイレを利用することができる世帯の割合

2012年 41% → 2023年 71.1%

正しい手洗い習慣を実践する保護者の割合

2019年 46.3% → 2023年 78.9%

安全な水供給システムを備えた保健施設

2019年 17.9% → 2023年 71.4%

Livelihood & Nutrition

生計向上・栄養改善

安定した収入を確保し、子どもの栄養状態が改善されました

この地域の農業は、伝統的な農法に頼っていたため収穫量が少なく、多くの家庭が十分な収入を得られずに子どもたちが栄養不良に苦しんでいました。また貧困を理由とした児童労働も問題でした。こうした課題を改善するため、ワールド・ビジョンは、地域の中でも特に貧しい家庭に対して、小規模の灌がいによる農法、野菜の苗の育て方、養鶏や畜産などの技術指導を行いました。その結果、多くの世帯が安定した収入を確保できるようになり、子どもたちの栄養状態にも改善が見られています。また小規模貯蓄グループを設置したことで、住民は貯蓄や借り入れが可能になり、教育費や医療費などの突発的な出費にも対応できるようになりました。

支援後

貯蓄グループの活動に参加する女性たち

支援後

研修に参加し、野菜の育て方を教わった親子

成果

年間を通して十分に食料を得られている世帯

2007年 25.8% → 2023年 56.8%

低身長の５歳未満児の割合

2007年 59.6% → 2023年 28.8%

Child Protection

子どもの保護

地域全体で子どもを守り育てる活動を進めています

地域では、児童婚や女性器切除など、子どもに悪影響を与える伝統的な慣習が根強く行われていたほか、母子家庭や障害を持つ子どもたちへの支援も限定的でした。そこで地方行政、教師、宗教リーダーや地域ボランティアと協働して「子どもの健やかな成長委員会」を設置し、子どもの権利や保護に関する様々な活動を行った結果、地域住民の間で貧しい家庭への支援が行われるようになりました。また住民や子どもたち自身による児童婚の通報が増えたことで、児童婚を未然に防ぐことにつながっています。学校では、子どもの権利クラブや子ども議会を設置し、地域の課題解決に子どもの意見を反映する場が作られました。

支援後

「アフリカ子どもの日」を祝うイベント

支援後

ヤギの支援を受けた母子家庭

成果

地域が安全な場所だと感じている子どもの割合

2019年 50.5% → 2023年 74%

18歳以下で結婚する子どもの割合

2016年 15% → 2023年 2.8%

「保護者と良い関係にある」と答える子どもの割合

2016年 63% → 2023年 84%

マネージャーよりごあいさつ

ゴンダール・ズリア地域
開発プログラム　マネージャー
イェシワス・メンゲシャ

17年の長きにわたり、ゴンダール・ズリア地域をご支援いただき、ありがとうございました。2006 年に活動を開始したとき、この地域では多くの子どもたちが飢えに苦しみ、安全でない水によって病気になっていました。また、児童労働や出生届の未提出といった、子どもの権利を侵害する状況も多く見られました。しかし、こうした地域の課題に焦点を当てて活動を続けた結果、現在では、大きく状況を改善することができています。長い支援期間の中には、干ばつによって活動内容を変更せざるを得ないといった試練もありましたが、今こうして地域が自立に向けて歩み出すことができたのは、チャイルド・スポンサーの皆さまの温かいご支援のおかげです。心から感謝いたします。

支援の成果を引き継ぎ、地域の自立と発展を目指します

ワールド・ビジョンによる支援活動終了後は、地域住民が中心となって、農業、教育、子どもの保護など、活動の分野ごとに支援の成果を引き継いでいきます。例えば衛生習慣の維持を目的に活動するグループでは、女性たちが中心となり、液体せっけんの配布をしたり、水設備の管理方法の確認などを行ったりしています。これまでチャイルド・スポンサーの皆さまのご支援によって行われてきた様々な活動を継続し、住民自らが発展させていくことは、子どもを取り巻く環境を改善する長期的な支援活動が実を結び、地域が支援を「卒業」することを意味します。

皆さまとともに歩んだ17年間の支援と成果

準備期
2006年度 ▼ 2007年度

◎ 支援対象地域の状況やニーズの調査
◎ 教育、保健、生計向上など、活動内容ごとに実行計画を立案
◎ 活動実施に向けた、人員および資金計画の立案

支援地域に暮らす子どもたち

支援地域の一般的な家屋

第1期
2008年度 ▼ 2011年度

◎ 保健センターの設立と、HIV/エイズ患者の支援
◎ 4つの小学校を建設
◎ 8つの子どもの保護委員会の結成
◎ 4kmの灌がい用水路の建設
◎ 灌がい用ポンプ18台の設置
◎ 182世帯に、羊、ヤギ、ニワトリなどの家畜を提供

保健センターで、1歳の子どものワクチン接種を受けた母親

灌がい用ポンプの利用によって、タマネギの収穫量が大幅に増加しました

第2期
2012年度 ▼ 2016年度

◎ 地域の小学校に、机、椅子などの設備を提供
◎ 小学校に12のトイレを建設
◎ 2つの幼稚園を建設
◎ 子どもたちが安全に遊べる遊具を学校内に設置
◎ 約4,000人の子どもたちに、定期的に学用品を提供
◎ 母親を対象とした、子どもの発育と子育てに関する研修を実施
◎ 家庭栽培用の野菜の種子や苗を提供
◎ 750世帯に農業用具を提供
◎ 子どもの保護委員会の活動を強化し、人身取引や児童婚抑止のための話し合いを実施

机と椅子の提供を受けた学校の授業風景

学校で子どもの保護について学んだ女の子

第3期
2017年度 ▼ 2023年度

◎ 子どもたちの読み書きの能力を向上させるため、読書キャンプを実施
◎ 6つの就学前教育センターを設立し、未就学児の教育を担当するスタッフの能力強化を実施
◎ 人々が安全な飲料水を得られるよう、11カ所に井戸を建設
◎ 水設備を管理・維持するためのグループを設立
◎ 女性による45の貯蓄グループを設立
◎ 子どもたちの栄養不良を改善するため、地域で採れる食材を活用した、栄養価の高い食事作りを指導する研修を実施
◎ 支援期間終了後の移行計画について、関係者との話し合い

読書キャンプの様子

女性の貯蓄グループを設立

支援を受けた家族のストーリー

「子どもたちはご飯をお腹いっぱい食べて、元気に学校に通っています」

ゲブリーさん（43歳）

ゴンダール・ズリア地域に暮らすゲブリーさん（写真右）は、3人の子どもを持つ父親です。以前、ゲブリーさんと彼の妻は家族を養うため、毎日幼い子どもたちを家に残して遠く離れた町まで行き、日雇い労働をしていました。しかし長時間かけて町へ行っても仕事があるとは限らず、生活は非常に厳しいものでした。ゲブリーさんは、当時をこう振り返ります。「収入が少なくて、子どもたちに栄養のある食事を与えることができませんでした。家族が病気にかかっても、お金がないので病院に連れて行くことも、薬を買うこともできませんでした」

その後、ゲブリーさん一家の生活は、小規模農家用の電動灌がいポンプが導入されたことをきっかけに変わり始めます。ゲブリーさんはワールド・ビジョンからこのポンプの提供を受け、ニンニクの栽培を始めました。さらに農業に関する研修に参加するなどした結果、生産量は年を追うごとに増加し、老朽化していた家を改修したり、家畜を購入したりできるほどの収入を得られるようになったのです。

「私の子どもたちは、今ではご飯をお腹いっぱい食べて、元気に学校に通っています。家族の健康状態も良くなりましたし、とても幸せに暮らしています。私たち家族の生活を支え、希望を守ってくださったチャイルド・スポンサーの皆さま、本当にありがとうございました」

World Vision
この子を救う。未来を救う。

ワールド・ビジョン・ジャパンは、
キリスト教精神に基づき
世界の子どもたちを支援している国際NGOです。

特定非営利活動法人ワールド・ビジョン・ジャパン
電話：03-5334-5351　FAX：03-5334-5359
e-mail：dservice@worldvision.or.jp
ホームページ：www.worldvision.jp